

神奈川県の学童保育

この1年間、時候のあいさつを担当してきました。最初の内容が「保育園落ちた…」でした。1年間で解決できるような課題ではないのは承知の上で、あえて一言。

保育園の定員問題、降ってわいた問題ではない。20年以上も続いている。「待機」という名のごまかしが通用しなくなった。殊更この事を気にするのか?制度改革の中、学童保育にあっても「定員」が大きな課題。子どもの生活環境を考えた時、無定員であっていいわけがないとすればどうしていくのか?

「定員」に余裕があっても、運営可能な制度設計。こんなことも考えてみたい。

第40回神奈川県学童保育研究集会を開催

～ 「おかえりなさい」は魔法のことば ～

去る2月26日(日)、関東学院大学金沢八景キャンパスに於いて、「第40回神奈川県学童保育研究集会」を開催しました。

気持ちの良いお天気の中、20地域422名の保護者・指導員他が集い、午前中の全体会、午後は15の分科会で学びあうことができました。

全体会では、実行委員長の挨拶からスタートし、来賓の「神奈川県の学童保育を支える議員連盟」佐藤会長、神奈川県次世代育成課田村課長代理からの挨拶、小神会長からの基調報告と続き、今回初めての取り組みとして「日本の学童ほいく」松崎運之助先生連続エッセー「心の散歩道」から、17年2月号「霜柱の朝」を読み合わせました。保護者、指導員6人で心を込めて読んだ朗読に、参加者から「心に響き感動した」との感想が多数寄せられています。

そして、記念講演は松崎運之助先生による『「おかえりなさい」は魔法のことば』です。

「学童保育や夜間中学校などで出会ったステキな大人たち。厳しい現実でもけなげに生きる子どもたち。日雇いをしながら三人の子どもを育てた私の母、などのエピソードを交えながら、『子どもの成長を支えるために大人が大切にしたいこと』について、お話をいただきました。先生の生い立ちや経験に基づく熱い思いは学童保育にも向けられ、指導員、保護者への激励の言葉となって参加者の心に落ちていきました。

講演の中で、ほいく誌の読み合わせや、実行委員会でも考えたタイトルについて手放しで褒めてくださり、関係者としてとてもうれしく思っています。

午後の分科会については中面の「参加者からの感想」をお読みください。



第40回かな研実行委員長挨拶

先日の研究集会には県内各地域より多くの保護者・指導員・関連機関の方々にお忙しい中お集まり頂き、誠にありがとうございました。

全体会の松崎先生の記念講演では、笑ったり泣いたりしながら、自分自身の子育てと照らし合わせて、励ましのメッセージを頂いた様に感じました。また、「おかえりなさい。」と子どもたちの放課後に毎日迎えてくれる指導員の先生方に、感謝の気持ちと学童保育の大切さを改めて感じる事が出来てとても充実した時間でした。

そして午後の分科会では、皆さんで学び合い、情報交換や交流を通して有意義な時間を過ごして頂けたと思います。各地域、様々な課題や問題等あるかと思いますが、今後も神奈川県学童保育研究集会を続けていき、参加された皆様によって、神奈川県の学童保育がより良いものになる為に活かして頂ける事を期待しております。

最後に、研究集会の準備をして頂いた実行委員の皆さん、大変お疲れさまでした。

小暮香織



第40回神奈川県学童保育研究集会参加者の声(分科会感想より)

第1分科会「ようこそ学童保育へ」

- ◆ 学童保育の基礎を知り、理解を深めることができた。(学童の歴史、学童保育とは、指導員の役割など)
- ◆ 保護者としての負担感を、見方を変えてプラス思考で受け止めている姿に励まされました。

第2分科会「指導員の仕事・実務」

- ◆ 運営指針の文章からだけでは読み取れない部分を知ることができました。
- ◆ 子ども優先、子ども目線で考えやってくれていることを改めて感じ、頭が下がる思いです。

第3分科会「学童保育の日々の記録」

- ◆ 普段つけている子ども達の日々の記録について考えさせられました。子ども一人一人と向き合う仕事が改めて魅力的に感じました。特に「記録を付けていく意味」に関しては本当に考えさせられました。
- ◆ 学童保育は子どもへのかかわりがスタートで、一人ひとりと向き合うことが仕事という飛鳥井先生の言葉が印象に残りました。

第4分科会「高学年の子どもの身体と発達」

- ◆ 性について改めて大切なことだと思った。話が分かりやすく勉強になった。反抗期の子どもたちに、どう対応していくべきか知ることができて良かった。
- ◆ 自分のころとは時代が違うし、娘もこれから高学年になっていくので、こういうことを考える機会が持てて良かったです。1ページのレジュメでは書ききれないメモを取りました。

第5分科会「大人に見えない子どもの世界」

- ◆ インターネット依存のこわさ、実際の経験談、様々な情報を教えて頂き、大変勉強になりました。又、こんな勉強会に参加したいです。
- ◆ インターネットの世界について、多くの情報が得られました。インターネットを切り離すこともできないし、危険についても理解しながら利用していかなければいけないことが、よくわかりました。

第6分科会「悩まなくても大丈夫!!」

- ◆ アレルギーについてこんなに詳しく説明を受けたのは初めてで大変勉強になりました。
- ◆ エピペンやスキンケアのレクチャーがよかった。
- ◆ 資料のレシピ集を参考にしたいです。
- ◆ 対応マニュアルは目に見えるところに設置するなど活用したい。

第7分科会「一人ひとりを大切に!」

- ◆ 具体的に障害の方のビデオを観ることができ、わかりやすく良かった。
- ◆ グループディスカッションが良かった。他の学童の悩みや話を聞いて参考になり、とても良かったです。

第8分科会「学童保育の安全対策・危機管理」

- ◆ 危険なことを、ただルールを決めてやらせないのではなく、子どもたちと一緒に危険性を学び、それらを伝えていく大切さを改めて知りました。
- ◆ 毎日心配しながらも、安全対策が出来ずにいました。今回参加し、安全対策・危機管理について確認することが出来ました。

第9分科会「安定した学童保育の運営をめざして」

- ◆ 来年度、会計役を担うにあたり、とても勉強になった。皆様の学童の現状を聞くことができて、とても役に立ちました。
- ◆ 色々とお話を聞いて、とても勉強になりました。特に補助金の話は地域によって差があったり、知らなかったこともあり、驚きが多かったです。

第10分科会「子ども同士のかかわり」

- ◆ グループに分かれての検討だったので、とても細かく話をする事ができた。「どうしたかったの?」と声掛けを早速実践していきたい。
- ◆ 指導員の方々の日々のご苦勞を感じる事ができる貴重な体験だった。正解がないだけに悩むことも多いかと思うが、保護者としては感謝の言葉しかありません。

第11分科会「伝え合おう子どものこと」

- ◆ 保護者との伝え合いのひとつに“おたより”があり、それぞれの学童によってレイアウトも構成もちがうので、本日の講義でたくさんの学童のおたよりを見て、参考になりました。
- ◆ すぐに実践できる内容だったので、参加してとてもよかったです。

第12分科会「実践記録を検討する」

- ◆ 少人数だったので、色々な意見を出しあうことができ、とても学びが深まりました。子ども一人について、チームで情報や思い、見立てを深め、支援していけたらと思います。
- ◆ このようなミーティングを指導員の方がされていると思うと感謝でいっぱいです。一人の指導員が負担にならないようにチームで支え合えたらと思います。

第14分科会「みんなであそぼう」

- ◆ 色々な学童の遊びや、知っている遊びの交流が出来て、明日からの保育に活かせる内容ばかりで、とても勉強になりました。自分の知っている遊びもルールが様々で、おもしろくて子ども達とやりたい遊びがあって、参加してよかったです。
- ◆ 紙飛行機をムキになって飛ばしてしまったくらい、大人でもとても楽しめました。

第15分科会「学童保育を取り巻く国の状況」

* 13分科会は15分科会と合同になりました。

- ◆ 木田会長のレジュメの説明をもとにたくさんの質問・意見が交わされすごく勉強になった。他地域の施設の運営や活動を知ることができてよかった。
- ◆ むずかしい話だったが、身近な自クラブの課題とだぶらせて議論が進められ、理解が進んだ。

「神奈川県学童保育を支える議員連盟」との意見交換会

神奈川県議会には「学童保育を支える議員連盟（議連）」があり、県内の学童保育の視察や、厚生労働省担当課による市町村議会議員の勉強会などの活動をしています。

2016年度は、3月11日（土）、ホテル横浜ガーデンにて、意見交換会の実施となりました。開会に先立ち、「東日本大震災」で犠牲になった方々への黙祷。議連牧島顧問、議連佐藤会長、県連協小神会長からの挨拶、そして県次世代育成課榎原課長から2017年度県予算、厚労省の方針等説明を受けました。

その後、参加した地域から指導員の処遇の状況、研修の地域格差、施設の安全の課題、減免の実施に対する保護者からの感謝の手紙などが報告として出され、議員からも意見や質問をいただき、活発な意見交換会となりました。

この意見交換会が、今後の県内の学童保育のさらなる発展につながるよう、議連の皆様のお力添えを願っています。最後に、議連小川副会長より2017年度は視察をしていきたいとの抱負をいただきました。



<議員連盟役員の方々>

活動報告(2月～3月の主な活動報告)

2月2日(木) 県連協2月度運営委員会

3月2日(木) 県連協3月度運営委員会

2月4日(土)～5日(日) 全国運営委員会

3月5日(日) 認定資格研修講師団会議

2月17日(金) 県連協2月度役員会

3月11日(土)「学童保育を支える議員連盟」との意

2月26日(日) 第40回神奈川県学童保育研究集会

見交換会

♪ 地域連協だより ♪

綾瀬市連協だより

綾瀬市連協は、市内民設12クラブ全てが加盟して活動をしています。

新制度が始まり2年経過しましたが施設の面積、老朽化や指導員確保等の問題は山積みで行政、市連協、各クラブが連携をとり、問題に日々取り組んでいます。また、クラブ間の交流を深める目的として「学童保育まつり」を実施したり、指導員の質の向上を目的として綾瀬市学童保育指導員会と連携をとり、「綾瀬市放課後児童支援員等資質向上研修」にも取り組んでいます。

綾瀬市の施策として、2017年4月現在、3つの公設（委託）による放課後児童クラブができ、今後も整備が進められている状況です。市連協との関係や民設クラブとの差が生じないように行政とは話し合いを進めている状況です。

新制度や公設クラブの設置により大きく変化をする綾瀬市の学童保育がより良いものになっていくよう市内だけでなく、県連や各地域と協力して取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

2017年度が始まりました。

皆さんの地域ではどんなスタートとなりましたか？さて、今月の地域連協だよりは綾瀬市と相模原市からです☆彡

相模原市連協だより

相模原市は公立児童クラブに加え、様々な運営形態の学童保育があります。設置率は全国の政令市で最も多いものの、需要がそれを上回り、待機児童数は県内の約1/3を占めています。

児童数5名から市の独自予算で補助金が出るものの指導員処遇費の執行率や非課税世帯への民間学童通所者への保育料補助の問題（公営施設通所者には補助あり）が残っています。

昨年に引き続き市の委託事業として民間学童保育の普及イベントを実施しました。この催しでは市内にある女子美術大学や事務用品組合等多くの団体と協力し、前年を超える来場者がありました。

29年度からは市が主催する連絡会が発足することになっています。市連協とは別組織となり、今後の協力体制を検討しています



来月の「地域連協だより」では秦野市と逗子市を予定しています。お楽しみに！

<これからの予定>

- 6月4日(日) 第42回全国学童保育指導員学校（大東文化大学板橋キャンパス）
 - 6月25日(日) 第42回神奈川県学童保育連絡協議会定期総会（横浜市開港記念会館）
 - 8月第1週に文化事業として子ども向け映画の上映会を予定しています。（詳細は後日）
 - 9月10日(日) 秋の拡大運営委員会・学習会（大和市渋谷学習センター）
 - 11月4日(土)～5日(日) 第52回全国学童保育研究集会 in 兵庫
- *その他、運営委員会は毎月第1木曜日、役員会は第3金曜日に開催。